大館市病院事業
経営強化プランの点検・評価報告

（令和７年度実績）

令和８年８月

大館市病院事業

目　　次

１．　新たな経営強化プランの点検・評価・公表について　P.1

２．　市立病院の現状　P.2

３．　経営強化プランの点検・評価

（1）　点検・評価の方法　P.12

（2）　医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標　P.13

（3）　経営強化に向けた具体的な取り組み　P.15

（4）　経営指標に係る数値目標　P.18

（5）　経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等　P.19

（6）　総括　P.22

１．経営強化プランの点検・評価・公表について

大館市病院事業ではこれまで、市立病院に求められる役割・機能の変化への対応や他医療機関との機能分担や連携による効率的な病院経営、少子高齢化等の周辺環境の変化への対応を目的に中期経営計画（平成 26 年度から平成 30 年度まで）や経営改革プラン（平成 29 年度から令和2年度まで）を策定し、経営の効率化に取り組んできました。

経営改革プランの対象期間から一定の期間が過ぎ、少子高齢化の進行に伴う医師・看護師等の不足や医師の時間外労働規制への対応、感染症拡大時に公立病院が果たすべき役割の重要性が再認識されたことから、総務省は令和4年3月に「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を公表しました。

大館市病院事業では、公立病院経営強化ガイドラインに基づき、地域特性を踏まえた持続可能な医療提供体制の確保に向けて、「大館市病院事業経営強化プラン（令和6年度～令和9年度）」（以下「経営強化プラン」という。）を策定しました。

その後、人口減少による医療需要の変化や医療従事者の確保が困難さを増すなどの病院経営を取り巻く状況の変化に対応するため、公立病院の果たすべき役割、経営強化の進め方、数値目標などの一部を令和8年3月に改定しました。

経営強化プランでは、毎年度病院ごとに自己点検及び自己評価を行うこととしており、総合病院及び扇田病院における令和7年度実績についての点検・評価の内容を公表します。

2．市立病院の現状

(1) 市立病院の状況（令和8年3月31日現在）

＜総合病院＞

病 床 数	443 床 一般病床:375 床、精神病床:60 床、結核病床:6 床、 感染病床:2 床
診 療 科	25 科 呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、 内分泌内科、代謝内科、神経内科、神経精神科、小児科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、 産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、 リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、矯正歯科
正職員数	524 名 医師:53 名、看護師・准看護師:339 名、 医療技術職 96 名、事務職:35 名、技能員:1 名
備 考	令和6年4月1日 地域救命救急センター、訪問看護ステーションを開設

＜扇田病院＞

病 床 数	40 床 療養病床:40 床
診 療 科	5 科 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻いんこう科
正職員数	49 名 医師:1 名、看護師・准看護師:30 名、 医療技術職:9 名、事務職:9 名
備 考	令和7年4月1日 1 病棟 40 床(療養病床)体制に移行

(2)経営の状況

令和7年度大館市病院事業では、経営強化プランに基づき地域に必要な医療の提供と経営改善に向けて取り組んできました。

総合病院は、圏域の中核病院として、小児・周産期などの不採算医療やがん治療、高度・専門医療などの役割を担い、地域医療の維持に努めました。

令和7年度の損益状況は、入院・外来ともに患者数が増加しており、診療単価の向上も相まって、医業収入が増加しました。

一方で、人事院勧告による給与のベースアップや物価高騰による材料費の増など費用の上昇があり、医業収支の改善には至りませんでした。

扇田病院は、令和7年度から 1 病棟 40 床体制に移行し、地域に根差した一次医療機関として、回復期・慢性期医療の提供と、訪問診療などの在宅医療及び健診事業の提供に取り組みました。

病床削減により入院収益が減少しましたが、規模縮小に伴い給与費などの費用もそれ以上に縮減され、医業収支は改善されています。

また、県からの給付金等により医業外収益が増加し、純損失は改善されました。

※ 点検・評価報告における実績額について

⑴ 各収支項目の実績額は、総務省「地方公営企業決算状況調査」の区分による。

⑵ 令和7年度の総合病院「医業収益」及び「医業費用」実績額には、「訪問看護事業収益」及び「訪問看護事業費用」実績額を含む。

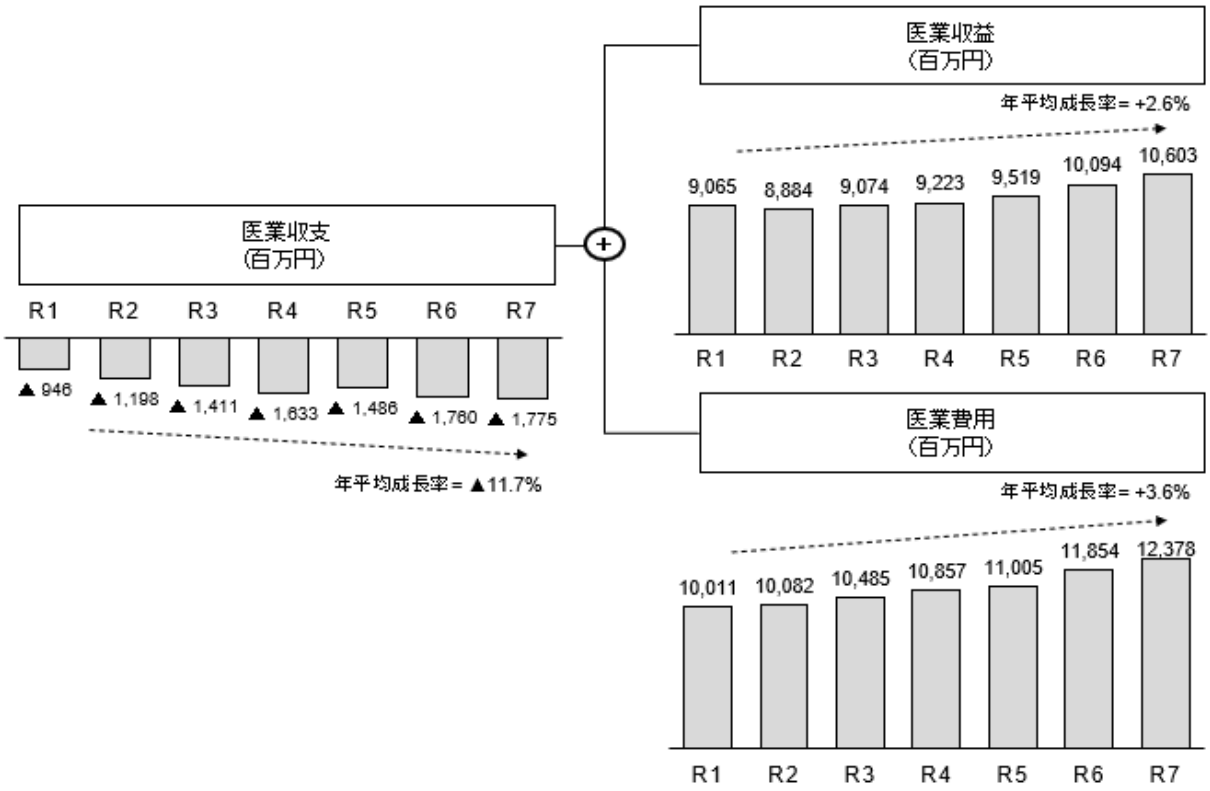
（ア） 医業収支の状況

＜総合病院＞

総合病院は、入院・外来の患者数が増加したことにより、医業収益は前年度に比較して約 5 億 900 万円の増となりました。

一方、医業費用は、人事院勧告による給与費や材料費、特に薬品費などの上昇により、前年度に比較して約 5 億 2,400 万円の増となりました。

令和7年度の医業収支では、約 17 億 7,500 万円の赤字となっています。

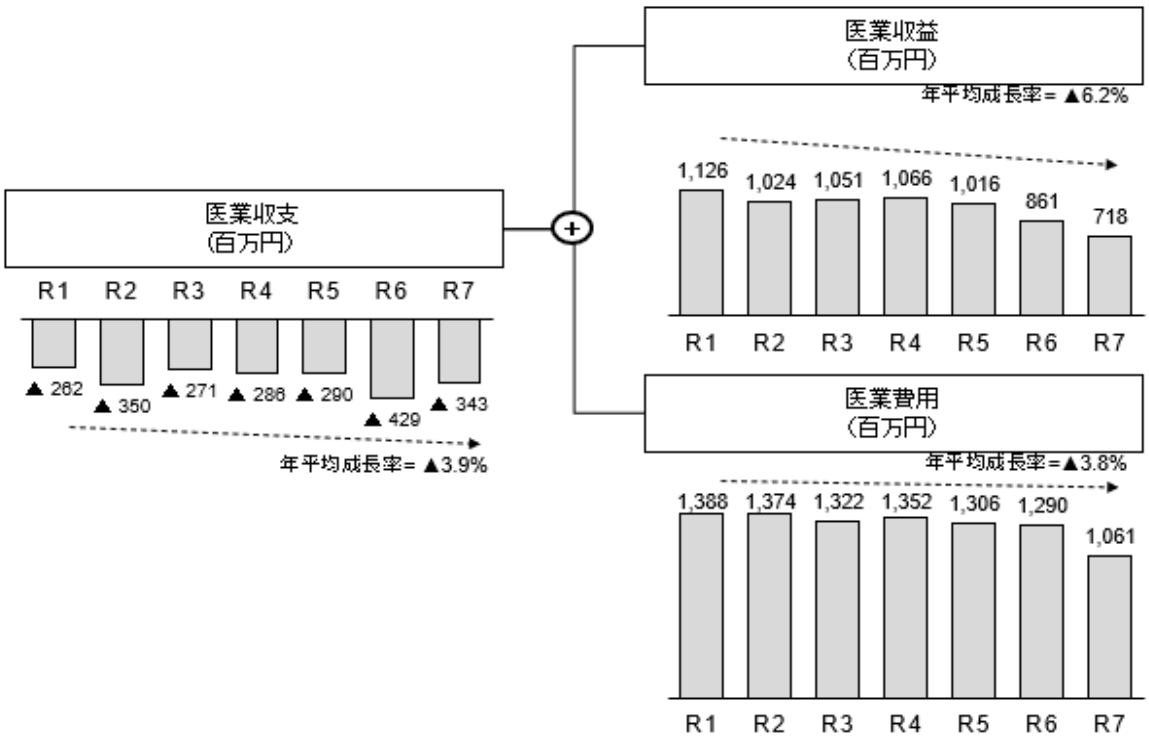


＜扇田病院＞

扇田病院は、令和7年4月に1病棟40床体制に移行したことにより医業収益は前年度と比較し、約1億4,300万円減少しました。

一方、医業費用は職員の適正配置による給与費の縮減と賃借料や委託料などの見直しによって経費が大きく減り、前年度と比較し、約2億2,900万円の減少となりました。

令和7年度の医業収支では、約3億4,300万円の赤字となっています。



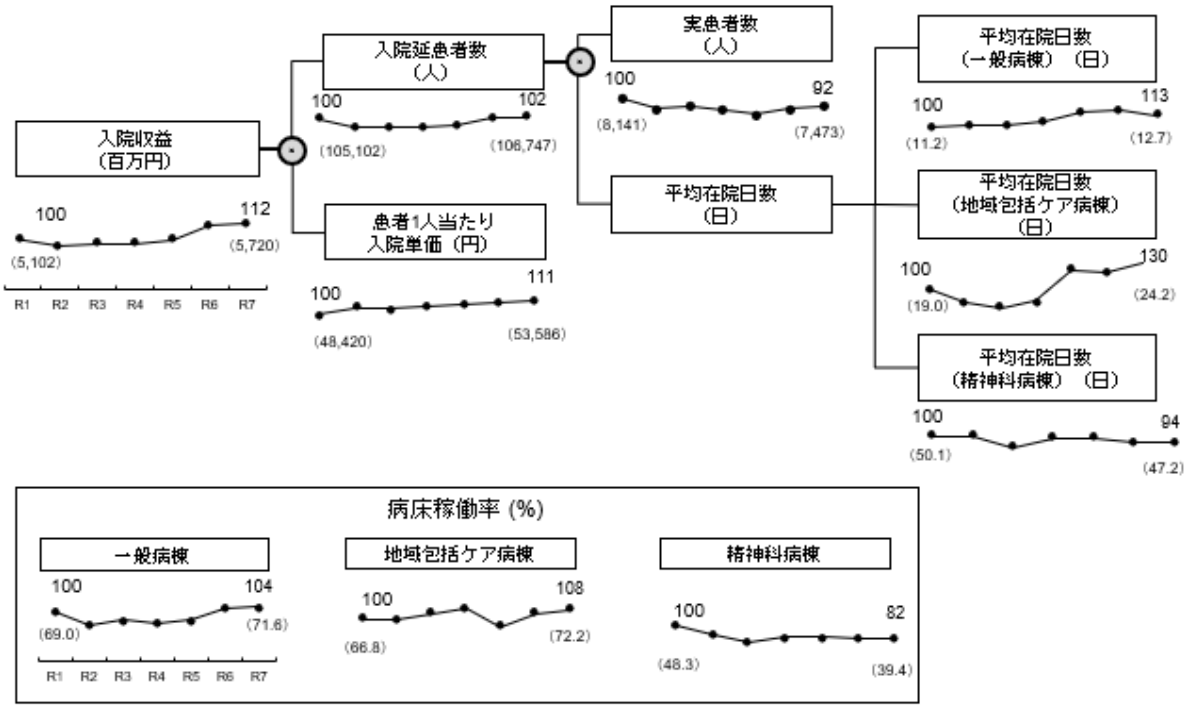
（イ） 収益分析

＜総合病院＞

① 入院診療の状況

総合病院の入院延患者数は増加傾向ですが、実患者数は減少傾向です。

病床稼働率及び平均在院日数等の適正管理により、患者 1 人当たりの入院単価は上昇傾向にあり、それに伴い入院収益全体としては、増加で推移しています。



○令和7年度

・前年度比約 1 億 700 万円の増加

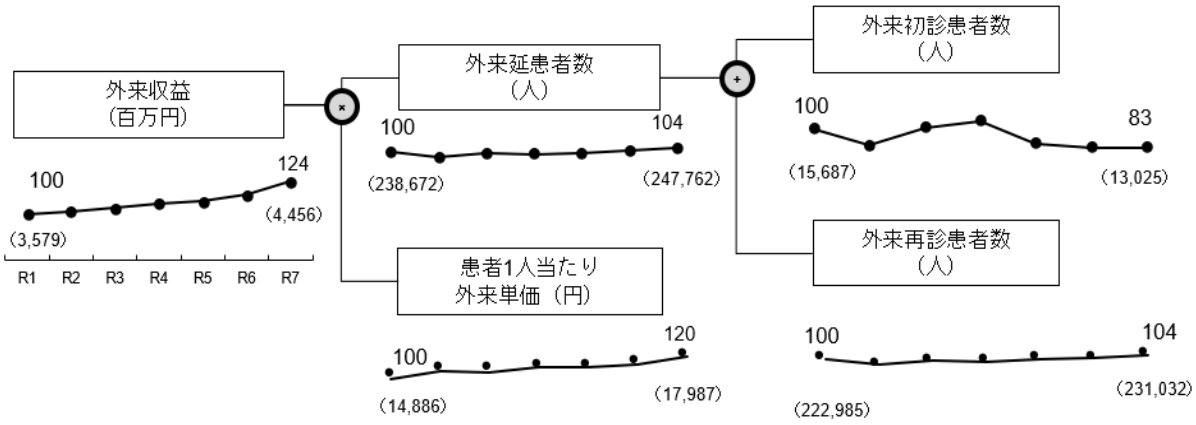
・下半期は、一般病棟、地域包括ケア病棟とも入院患者の増加等により病床稼働率が上昇

・DPC 分類ごとの適切な入院期間による収益確保

② 外来診療の状況

外来延患者数は増加傾向にありますが、初診患者数は減少傾向です。

また、患者一人当たりの外来単価は増加傾向にあり、これに伴い外来収益も増加しています。



○令和7年度

・前年度比約 3 億 7,200 万円の増加

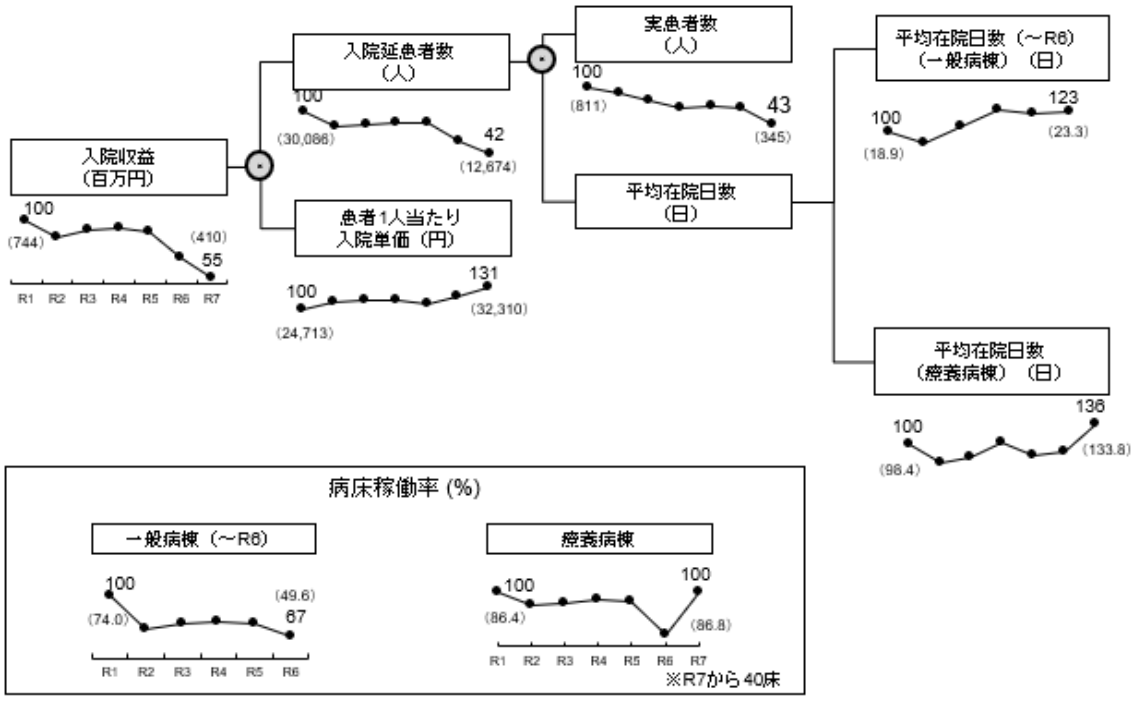
・近隣病院やクリニック等の医療機能縮小により、前年度と比較し延患者数が増加

・地域の診療所の減少などにより、逆紹介が困難となっており、再診患者数が増加傾向

＜扇田病院＞

① 入院診療の状況

扇田病院の患者1人当たりの入院単価は増加傾向にありますが、入院延患者数の減少が大きく、入院収益としては減少傾向にあります。



○令和7年度

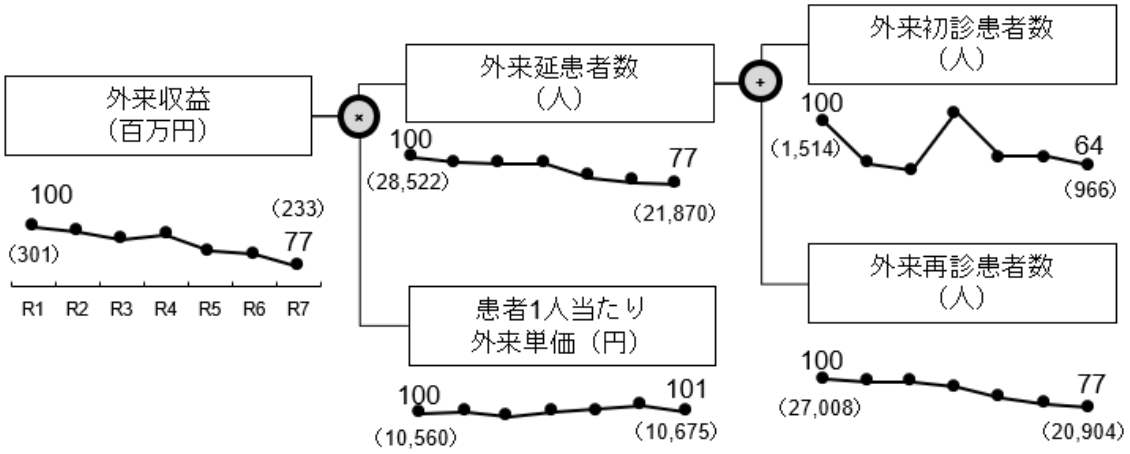
・稼働病床を 42 床削減したことにより、前年度比約 1 億 1,600 万円の減少

② 外来診療の状況

扇田病院の外来延患者数は減少傾向にあり、初診・再診ともに減少しています。

患者1人当たりの外来単価は長期的には増加傾向にありますが、令和7年度は前年度を下回りました。

外来収益減少の主な要因は外来延患者数の減少です。



○令和7年度

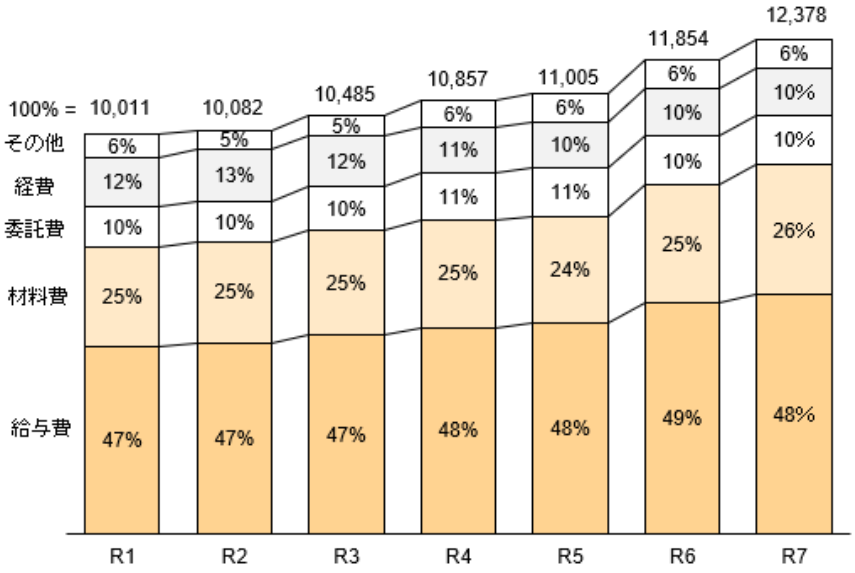
・前年度比約 2,000 万円の減少

・地域の高齢者人口の減少に伴い、延患者数が減少

（ウ）費用分析

＜総合病院＞

総合病院の医業費用は、ほぼ全ての費用項目で増加しており、令和元年度との比較では、給与費（27.7％）と材料費（30.1％）の伸びが顕著です。



R1年度からの増減	
金額（百万円）	増減率
+133	+22.3%
▲ 53	▲4.3%
+235	+23.5%
+756	+30.1%
+1,296	+27.7%

○令和7年度

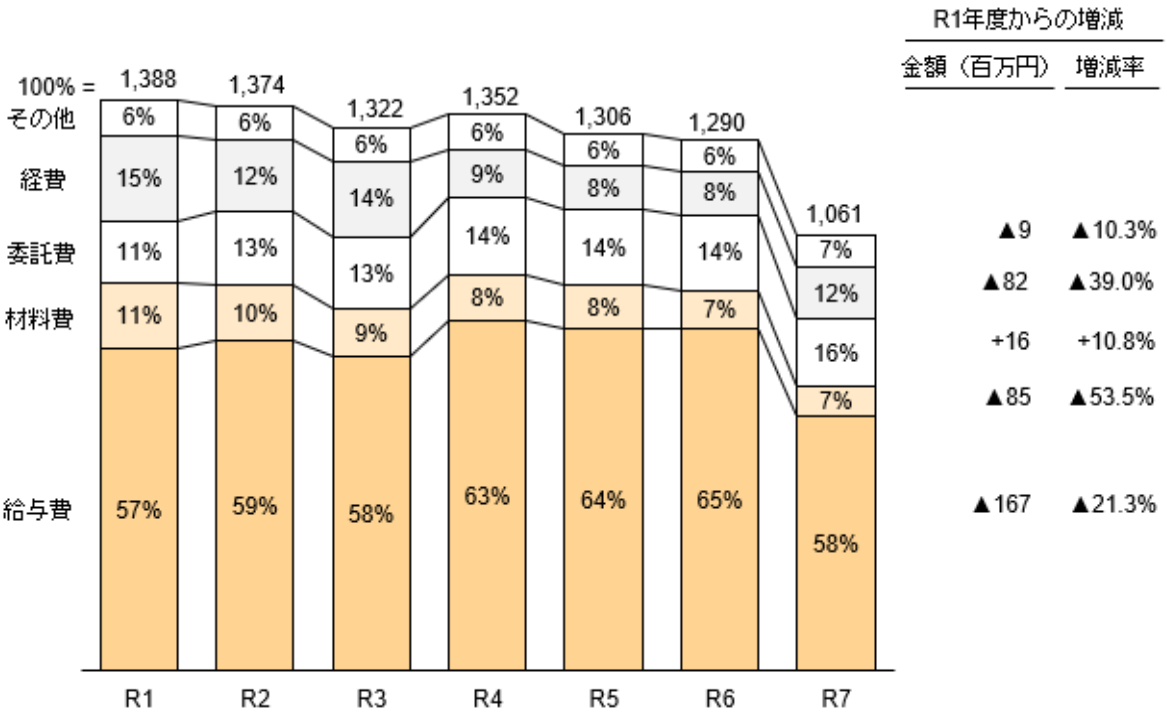
・給与費　人事院勧告を踏まえたベースアップの影響等による増
（前年度比 約 1 億 7,500 万円）

・材料費　医療の高度化等による薬品費、給食材料費の増
（前年度比 約 3 億 3,900 万円）

＜扇田病院＞

扇田病院の医業費用は、経年で減少傾向にあります。

令和元年度との比較では 40 床体制に移行したことにより、委託費を除き給与費（▲21.3％）、材料費（▲53.5％）及び経費（▲39.0％）の減少が顕著です。



○令和7年度

・給与費　1 病棟体制への移行に伴う適正な人員配置による減
（前年度比 約▲1 億 7,200 万円）

・委託費　1 病棟体制への移行に伴う業務委託仕様の見直しによる縮減を図ったが、民間賃金の引き上げや物価高騰が影響
（前年度比 約▲2，100 万円）

・材料費　1 病棟体制への移行に伴う患者数減少による薬剤費、診療材料費、給食材料費の減
（前年度比 約▲ 1,800 万円）

3．経営強化プランの点検・評価

（1） 点検・評価の方法

自己評価にあたっては、次の方法により行いました。

○取組状況に対する自己評価

区分	評価の内容
A	計画にあげた取組は、全て行った。
B	計画にあげた取組は、一部のみ行った。
C	計画にあげた取組は、行わなかった。

○数値目標に対する自己評価

区分	評価の内容	
	目標値が正の値の場合	目標値が負の値の場合
A	目標達成値が 100 以上の場合	目標達成値が 95 未満の場合
B	目標達成値が 95 以上で 100 未満の場合	目標達成値が 95 以上で 100 未満の場合
C	目標達成値が 95 未満の場合	目標達成値が 100 以上の場合

※目標達成値＝実績値÷目標値×100

(2) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

〈総合病院〉

医療機能	指標項目	R6年度	R7年度		R7年度実績対前年度増減	R7年度実績対目標増減	評価
			目標	実績			
急性期	平均在院日数	13.4日	12.0日	12.7日	▲0.7日	0.7日	A
	手術件数	1,756件	1,732件	1,778件	22件	46件	A
	リハビリ患者数	29,199人	24,360人	30,524人	1,325人	6,164人	A
	クリニカルパス適応率	43.4%	43.1%	39.3%	▲4.1 %	▲3.8 %	C
救急	救急患者数	7,410人	7,600人	7,488人	78人	▲112人	B
	地域救急貢献率	64.10%	63.00%	68.90%	4.80%	5.90%	A
	PCI実施件数	104件	120件	106件	2件	▲14件	C
	HCU利用率	−	−	−	−	−	−
がん治療	院内がん登録者数	904人	910人	961人	57人	51人	A
	化学療法患者数	5,086人	4,600人	5,433人	347人	833人	A
	放射線治療患者数	166人	140人	169人	3人	29人	A
周産期	分娩件数	332件	350件	335件	3件	▲15件	B
認知症	認知症センター相談件数	286件	260件	290件	4件	30件	A
退院支援	退院支援実施率	26.0%	24.0%	14.0%	▲12.0%	▲10.0%	C
	在宅復帰・病床機能連携率(急性期)	97.9%	95.0%	97.8%	▲0.1%	2.8%	A
	在宅復帰率(包括ケア)	80.7%	80.0%	79.9%	▲0.8 %	▲0.1%	B
在宅医療	訪問看護件数	2,827件	3,600件	3,705件	878件	105件	A
地域医療連携	患者紹介率	53.5%	45.0%	52.2%	▲1.3%	7.2%	A
	患者逆紹介率	23.9‰	20.0‰	22.6‰	▲1.3%	2.6‰	A

主な取組状況

・急 性 期　リハビリ患者数は、入院患者数の増加及び心臓リハビリテーションの開始等により、目標を上回った。

・救　　急　救急患者数は、目標を下回ったものの前年度実績は上回った。旧二次医療圏（大館・鹿角）の中で当院が受け入れた救急搬送患者数が多かったため、地域救急貢献率が向上した。

・がん治療　化学療法患者数及び放射線治療患者数は、昨年度に続いて増加し、目標を上回った。

・在宅医療　訪問看護件数は、訪問看護ステーションが開設2年目となり、目標を上回った。

〈扇田病院〉

医療機能	指標項目	R6年度	R7年度		R7年度実績対前年度増減	R7年度実績対目標増減	評価
			目標	実績			
回復期	在宅復帰率	82%	80%	85%	3%	5%	A
地域医療	オープンベッド患者数	4人	10人	9人	5人	▲1人	C
	夕やけ診療患者数	1,270人	1,300人	1,223人	▲47人	▲77人	C
健診事業	人間ドック・企業健診受診者数	1,749人	1,700人	1,634人	▲115人	▲66人	B
	人間ドック・企業健診再受診者数	79人	70人	89人	10人	19人	A
	企業予防接種数	1,266人	1,400人	1,252人	▲14人	▲148人	C
在宅医療	訪問診療・看護件数	2,240件	2,040件	2,223件	▲17件	183件	A
	在宅看取り件数	35件	30件	31件	▲4件	1件	A
	地域連携室相談件数	2,691件	1,500件	2,104件	▲587件	604件	A

主な取組状況

・地域医療　オープンベッドは、かかりつけ医の協力などにより前年度を上回ったが目標に達しなかった。

・健診事業　人間ドック・企業健診受診者数は、1日あたりの健診種別ごとの受入件数の平準化を行った。健診種別によっては、受診希望が受入可能数を下回ったものもあり、受診者数が前年度を下回った。

・在宅医療　訪問診療・看護、看取り件数は、前年度と同程度で推移した。地域連携室相談件数は入院患者の減少により前年度と比較して減少している。

（3） 経営強化に向けた具体的な取り組み

＜総合病院＞

区分	項目		経営強化策	令和7年度進捗状況（点検）	評価
業務改善	外来業務の負荷軽減		・医師事務作業補助者の活用による医師業務の効率化 ・リフィル処方の活用による診察回数の適正化	・前年度の医師事務作業補助者（17人）の雇用体制を維持し、医師の業務負担の軽減に努めた。 ・令和 7 年度のリフィル処方件数は 1,353 件で前年度より 482 件増加した。	B
	病棟業務の負荷軽減		・看護業務の整理（不要な業務、実施方法の変更、業務のシフト・シェア） ・看護補助者の採用による増員配置	・記録の見直しや新規パスの作成によりパスの活用を増やし、標準化・簡素化を進めた。 ・扇田病院からの看護師の異動や看護補助者の新規雇用により 9 人を増員した。 ・令和 8 年度の正規職員採用に向けた教育体制を整備した。 ・令和 8 年度の正職員採用に向け、看護補助者の採用試験を行い、1人を採用した。	B
収支改善	収益関連	患者数増加策	・三次救急の整備による救急患者受入体制の向上	・令和 6 年 4 月　地域救命救急センター開設 ・令和 7 年度の救急患者数は 7,488 人で、前年度より 78 人増加した。	A
		患者単価適正化策	・コメディカルの加算余地見直しによる施設基準取得向上 ・標準的な統一基準の作成による検査等の適正化 ・医師の外来業務負荷軽減による検査、手術件数の適正化	心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰについて、令和 6 年 12 月に取得し、令和 7 年 5 月からは外来患者に対しても実施。	B
		その他		・紹介受診重点医療機関の申請 ・文書料、特別室料の見直し ・入院セットの導入	B

	費用関連	人件費適正化策	・病院職員の業務量改善による時間外勤務の抑制 ・病棟看護師夜勤配置数の適正化 ・バイタルデータ転送システム導入による業務の効率化	・適正な労務管理により、時間外勤務の縮減を図った。 ・医師手当を見直したことで、15,469 千円の給与費等を削減 ・看護師が自らで行う作業が減り、5,435 千円の経費を削減 （月平均 200 時間相当）	B
		材料費抑制策	・安全性・安定供給を考慮した上での後発医薬品・バイオシミラーの使用率向上 ・院内フォーミュラリの作成による材料費の標準化	・後発医薬品の使用率（令和 7 年度 78.8％、第 4 期秋田県医療費適正化計画の目標値:80.0％） ・バイオ後続品の使用割合（令和 7 年度 34.8％:8/23 品目、第 4 期秋田県医療費適正化計画の目標値:60.0％） ・骨折リエゾンサービスチーム（FLS）の院内フォーミュラリの運用が続いている。その他の取組は、今後も薬事委員会で検討する予定。	B
		委託費抑制策	・委託内容、業務仕様及び契約方法の見直し	・病棟清掃業務を見直し、2,211 千円の委託料を削減 ・夜間受付業務を見直し、6,402 千円の委託料を削減 ・令和 7 年 3 月からレセプト審査システムを導入したことに伴い、委託業務の人員を 2 人削減し、3,078 千円の委託料を削減	A
人材確保			・医師、看護師、医療技術職員等の勤務環境の整備	・診療看護師として、新たに 1 人が資格を取得した。（合計 3 人） ・特定行為看護師の資格取得者が 3 人増となった。（合計 5 人） 資格を活かした今後の活動体制の検討を進めた。	B
その他			・訪問看護ステーションの整備による地域在宅医療への貢献	・令和 6 年 4 月　訪問看護ステーション開設 ・令和 7 年度の訪問看護件数は 3,705 件で、前年度より 878 件増加した。（利用者数　月平均　令和 6 年度:238 人　令和 7 年度:307 人）	A

＜扇田病院＞

区分	項目		経営強化策	令和7年度進捗状況（点検）	評価
収支改善	収益関連	患者数増加策	・外来診療時間の拡大による新規外来患者の獲得	・週 2 回実施している午後外来の年間延患者数は 393 人であり、うち新規患者数は 122 人。	A
	費用関連	人件費適正化策	・医療機能に合わせた職員数の適正化	・1病棟体制となり職員配置を変更。これにより給与費の対医業収益比は 4 ポイント低下した。	A
		経　費抑制策	・委託内容、業務仕様及び契約方法の見直し	・委託内容、業務仕様などを見直し、経費削減に取り組んだが、施設設備、医療機器等の保守業務など縮減に至らないものがあった。	B
人材確保			・医師、看護師、医療技術職員等の病院事業内での効率的な人材配置	・施設基準の要件を満たすため、人員の適正配置を行った。	A

（4） 経営指標に係る数値目標

＜総合病院＞

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績 対前年度 増減	R7年度実績 対目標 増減	評価
				目標	実績			
収支改善に係る指標	経常収支比率	94%	92%	95%	95%	3%	0%	A
	修正医業収支比率	85%	84%	87%	85%	1%	▲2%	B
	医業収支比率	87%	85%	89%	86%	1%	▲3%	B
収入確保に係る指標	1日当たり入院患者数	267人	289人	310人	292人	3人	▲18人	C
	1日当たり外来患者数	975人	997人	932人	1,024人	27人	92人	A
	患者1人当たり入院単価 （一般病棟）	58,318円	59,354円	60,386円	60,300円	946円	▲86円	B
	患者1人当たり外来単価	16,527円	16,861円	17,358円	17,987円	1,126円	629円	A
	病床稼働率（一般病棟）	65%	71%	77%	72%	1%	▲5%	C
経費削減に係る指標	給与費対 修正医業収益比率	56%	57%	55%	56%	▲1%	1%	B
	材料費 対修正医業収益比率	28%	29%	29%	30%	1%	1%	B
	委託費 対修正医業収益比率	13%	12%	12%	12%	0%	0%	A

＜扇田病院＞

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績 対前年度 増減	R7年度実績 対目標 増減	評価
				目標	実績			
収支改善に係る指標	経常収支比率	91%	79%	118%	98%	19%	▲20%	C
	修正医業収支比率	77%	66%	82%	67%	1%	▲15%	C
	医業収支比率	78%	67%	83%	68%	1%	▲15%	C
収入確保に係る指標	1日当たり入院患者数	68人	49人	38人	35人	▲14人	▲3人	C
	1日当たり外来患者数	98人	93人	110人	90人	▲3人	▲20人	C
	患者1人当たり入院単価 （地域包括ケア病床）	34,698円	34,881円	35,500円	35,944円	1,063円	444円	A
	患者1人当たり外来単価	10,885円	11,223円	11,000円	10,675円	▲548人	▲325円	B
	病床稼働率	58%	50%	94%	87%	37%	▲7%	C
経費削減に係る指標	給与費 対修正医業収益比率	77%	91%	77%	87%	▲4%	10%	C
	材料費 対修正医業収益比率	9%	9%	9%	10%	1%	1%	C
	委託費 対修正医業収益比率	18%	22%	19%	23%	1%	4%	C

(5) 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

①収益的収支

＜総合病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績対前年度増減	R7年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 医業収益	9,519	10,094	10,779	10,603	509	▲ 176
	(1)入院収益	5,104	5,613	6,138	5,720	107	▲ 418
	(2)外来収益	3,918	4,084	4,218	4,456	372	238
	(3)その他	497	397	423	426	29	3
	うち他会計負担金	135	141	144	141	0	▲ 3
	うちその他の医業収益	363	256	280	285	29	5
	2. 医業外収益	1,336	1,450	1,396	1,693	243	297
	(1)他会計負担金･補助金	1,073	1,151	1,110	1,189	38	79
	(2)国(県)補助金	56	94	71	289	195	218
	(3)長期前受金戻入	132	131	137	138	7	1
	(4)その他	77	74	78	77	3	▲ 1
	経常収益 (A)	10,855	11,544	12,175	12,296	752	121
支出	1. 医業費用	11,005	11,854	12,175	12,378	524	203
	(1)職員給与費	5,279	5,792	5,837	5,967	175	130
	(2)材料費	2,674	2,925	3,132	3,264	339	132
	(3)経費	2,338	2,423	2,456	2,418	▲ 5	▲ 38
	うち委託費	1,211	1,231	1,275	1,234	3	▲ 41
	うちその他経費	1,127	1,192	1,160	1,184	▲ 8	24
	(4)減価償却費	656	664	699	682	18	▲ 17
	(5)その他	59	51	51	47	▲ 4	▲ 4
	2. 医業外費用	566	664	645	629	▲ 35	▲ 16
	経常費用 (B)	11,570	12,518	12,820	13,007	489	187
経常損益(A)-(B)　(C)		▲ 716	▲ 974	▲645	▲ 711	263	▲ 66
特別損益	1. 特別利益(D)	0	0	0	1	1	1
	2. 特別損失(E)	3	5	0	1	▲ 4	1
	特別損益(D)-(E)(F)	▲ 3	▲ 5	0	0	5	0
純損益(C)+(F)		▲ 719	▲ 979	▲645	▲ 711	268	▲ 66
資金不足額		368	1,021	1,187	1,292	271	105
資金不足比率		3.8%	10.1%	11.0%	12.1%	2.0%	1.1%

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

＜扇田病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績対前年度増減	R7年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 医業収益	1,016	861	823	718	▲ 143	▲ 105
	(1)入院収益	676	526	458	410	▲ 116	▲ 48
	(2)外来収益	258	253	293	233	▲ 20	▲ 60
	(3)その他	82	82	72	75	▲ 7	3
	うち他会計負担金	14	14	13	12	▲ 2	▲ 1
	うちその他の医業収益	68	68	59	63	▲ 5	4
	2. 医業外収益	209	193	336	358	165	22
	(1)他会計負担金・補助金	190	181	171	163	▲ 18	▲ 8
	(2)国(県)補助金	5	1	160	190	189	30
	(3)長期前受金戻入	9	7	2	2	▲ 5	0
	(4)その他	5	4	3	3	▲ 1	0
	経常収益 (A)	1,225	1,054	1,159	1,076	22	▲ 83
支出	1. 医業費用	1,306	1,290	1,108	1,061	▲ 229	▲ 47
	(1)職員給与費	831	832	680	660	▲ 172	▲ 20
	(2)材料費	105	92	79	74	▲ 18	▲ 5
	(3)経費	292	290	269	249	▲ 41	▲ 20
	うち委託費	187	185	168	164	▲ 21	▲ 4
	うちその他経費	105	105	101	85	▲ 20	▲ 16
	(4)減価償却費	77	74	76	76	2	0
	(5)その他	1	2	4	2	0	▲ 2
	2. 医業外費用	40	42	41	37	▲ 5	▲ 4
	経常費用 (B)	1,345	1,332	1,149	1,098	▲ 234	▲ 51
経常損益 (A) - (B)　(C)		▲120	▲278	10	▲ 22	256	▲ 32
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	0	0	0	0	0
	2. 特別損失 (E)	0	0	0	0	0	0
	特別損益 (D) - (E)　(F)	0	0	0	0	0	0
純損益 (C) + (F)		▲120	▲278	10	▲ 22	256	▲ 32
資金不足額		445	666	687	627	▲ 39	▲ 60
資金不足比率		43.8%	77.3%	83.5%	87.2%	9.9%	3.7%

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

②資本的収支

＜総合病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績 対前年度 増減	R7年度実績 対目標 増減
				目標	実績		
収入	1. 企業債	279	430	188	180	▲ 250	▲ 8
	2. 他会計出資金	406	399	433	433	34	0
	3. 国(県)補助金	94	338	18	18	▲ 320	0
	4. その他	7	9	9	10	1	1
	資本的収支計 (G)	787	1,176	648	640	▲ 536	▲8
支出	1. 建設改良費	333	842	208	221	▲ 621	13
	2. 企業債償還金	711	690	756	756	66	0
	3. その他	8	13	9	9	▲ 4	0
	資本的支出計 (H)	1,052	1,546	973	987	▲ 559	14
収支差額 (G) - (H)		▲ 266	▲ 369	▲ 326	▲ 347	22	▲21

＜扇田病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度実績 対前年度 増減	R7年度実績 対目標 増減
				目標	実績		
収入	1. 企業債	24	70	52	35	▲35	▲ 17
	2. 他会計出資金	21	17	15	15	▲2	0
	3. 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0	0	0
	資本的収支計 (G)	46	87	67	50	▲37	▲ 17
支出	1. 建設改良費	26	70	50	36	▲34	▲ 14
	2. 企業債償還金	45	38	36	32	▲6	▲ 4
	3. その他	0	0	0	0	0	0
	資本的支出計 (H)	71	108	86	68	▲40	▲ 18
収支差額 (G) - (H)		▲25	▲21	▲19	▲18	3	1

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

（6） 総 括

総合病院は、入院・外来ともに延患者数が増加し、診療単価も上昇したことから、医業収益は過去最高となった前年度をさらに上回りました。

一方で、人件費や薬品費などの増加により医業費用も増加し、医業収支は依然として厳しい状況です。

純損失は国の財政支援等により前年度から縮小しましたが、医業収支の改善に向け、患者数・診療収入の確保と併せて、材料費や人件費等の適正化、並びに地域の医療環境等の変化にあわせた適切な病床規模の検討を進めていく必要があります。

扇田病院は、令和７年度から療養病棟１病棟４０床体制へ移行し、職員配置等の見直しによる費用削減や県からの給付金等の増加により、純損失は前年度から大幅に縮小しました。今後も経費節減に努めるとともに、令和９年度の診療所への円滑な移行に向けた取組を進めていきます。

大館市病院事業全体では、令和７年度の純損失は前年度より縮小したものの医業収支は依然として厳しい状況にあります。将来にわたり圏域住民に必要な医療を提供していくため、令和８年３月に改定した経営強化プラン及びこのたびの点検・評価結果を踏まえて、令和８年度診療報酬改定に対応した総合病院の収支改善と扇田病院の機能移行を着実に進めてまいります。